

令和6年度 県立佐和高等学校 学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度重点目標の達成状況についての自己評価は妥当か	A 妥当である（4名） B おおむね妥当である C あまり妥当でない（1名） D 妥当でない	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までの課題等を踏まえ、重点5項目の各目標を「概ね以上に達成」されている。 授業満足度など客観的数字を用い評価し、生徒たちの満足度は比較的高い。その他、適切な評価である。 資料の自己評価表が見つらく、評価するのが難しい。目標の数値化が必要ではないでしょうか。
2. 学校の具体的目標及び具体的方策の達成状況についての自己評価は妥当か	A 妥当である（4名） B おおむね妥当である（1名） C あまり妥当でない D 妥当でない	<ul style="list-style-type: none"> 各教科をはじめとして、「ICTの活用」が定着してきおり、教科によっては指導方法及び指導形態の工夫に生かされ、指導効果を上げている様子がうかがえる。 分掌部及び学年においては、「具体的目標」達成のための「具体的方策」が分からない項目が散見される。「具体的目標」と「具体的方策」との関連を吟味されたい。 昨年の課題をもとに取り組んでいた。
3. 学校は次年度への主な課題を把握しているか	A 十分把握している（2名） B おおむね把握している（3名） C あまり把握していない D 把握していない	<ul style="list-style-type: none"> 次年度課題を明確に把握しています。 各教科及び各分掌部を中心に、ICTの「導入」が一段落し、次の「拡大・充実」の段階にきている状況がうかがえる。さらなる「ICTの活用」の拡充及び研究を期待したい。 「次年度への主な課題」の内容が抽象的であったり「課題」になっていなかったりする項目が散見される。 資料に記載の通り、具体的な方策に対する次年度の主な課題は概ね把握されていると思います。
4. 学校の改善方策への対応は適切か	A 適切である（2名） B おおむね適切である（3名） C あまり適切でない D 適切でない	<ul style="list-style-type: none"> 本校特性の理解の下、各項目で改善の方向性が明確に示されています。 この様式及び内容からは、「学校の改善方策への対応が適切」かどうかを読み取りづらい。 生徒評価、保護者評価、そしてPDCAサイクルに基づき、反省点を課題として掲げています。 改善方策そのものは適切であると考えますが、達成度を評価する数値的な目標値（KGIやKPI）を設定した方がより良い方策になると思います。
5. 特色ある学校づくりは推進されているか	A 十分推進している（2名） B おおむね推進している（2名） C あまり推進していない（1名） D 推進していない	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動部によるボランティア活動への取り組みが進められている。 校訓「君の心に聴け」を基盤とした「豊かな心の育成」が伝統となり、生徒一人一人に寄り添った教育並びにICTを活用した授業改善等を特色とし、さらには地域に開かれた学校づくりが推進されている。 いかに他校との差別化を図るか、さらに活発な議論が期待できるところだと思います。

※ 「学校関係者評価」は、学校の自己評価結果をふまえて行うこととします。学校関係者評価における評価者とは、各学校の生徒の保護者や、各学校の教職員を除いた学校と直接の関係のある者及び大学教員等の学校と直接の関係を有しない有識者とし、学校評議員も評価者に含まれます。